

2025 年度（令和 7 年度）
マガレイの漁況予測
（道北日本海～オホーツク海）

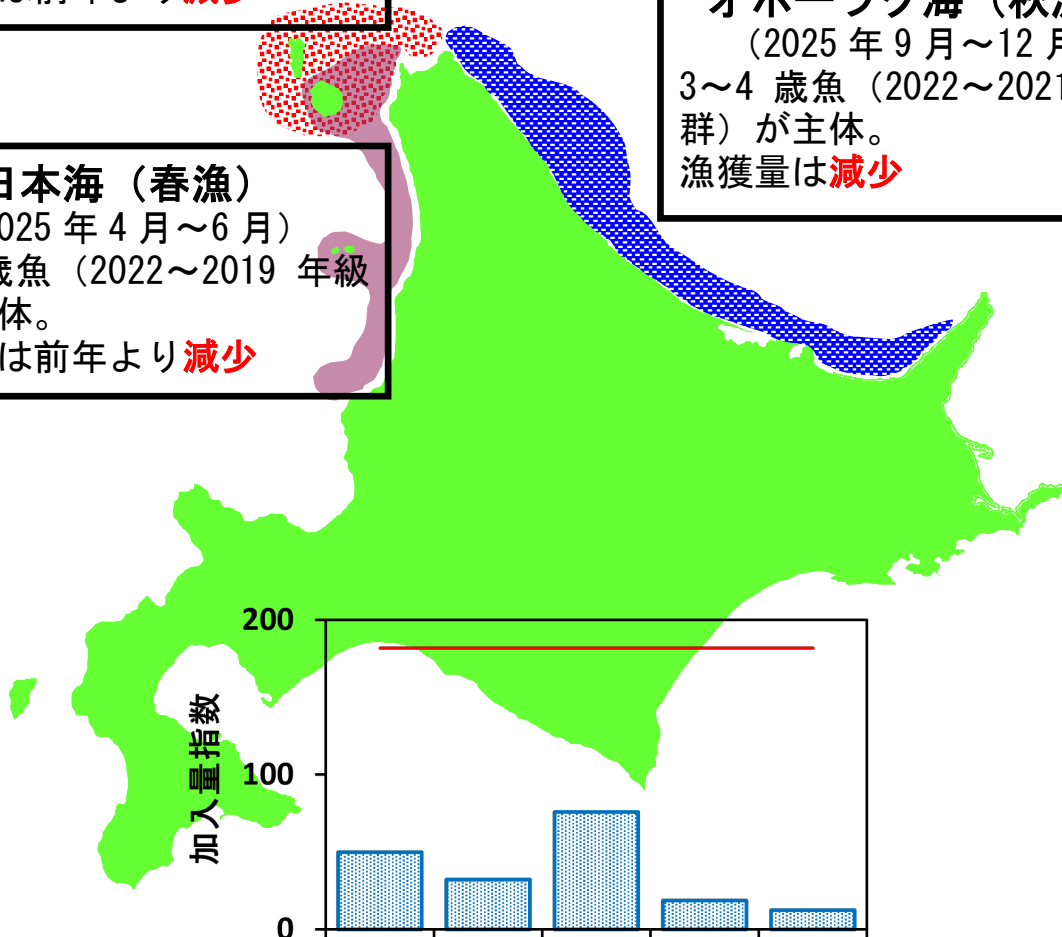
令和 7 年（2025 年）4 月 8 日
（地独）北海道立総合研究機構
 稚内水産試験場
道総研 網走水産試験場
（協力機関：中央水産試験場）

日本海（冬漁）
（2025 年 10 月～翌 2 月）
3～5 歳魚（2022～2020 年級
群）主体。
漁獲量は前年より**減少**

オホーツク海（夏漁）
（2025 年 5 月～8 月）
4～5 歳魚（2021～2020 年級
群）主体。漁獲量は**横ばい**

日本海（春漁）
（2025 年 4 月～6 月）
3～6 歳魚（2022～2019 年級
群）主体。
漁獲量は前年より**減少**

オホーツク海（秋漁）
（2025 年 9 月～12 月）
3～4 歳魚（2022～2021 年級
群）が主体。
漁獲量は**減少**



2025 年度の主な漁獲対象

※赤の横線は 1991～2010 年級の平均

稚内水試 HP (<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/wakkanai/section/zoushoku/index.html>)
網走水試 HP (<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/section/zoushoku/index.html>)に生態
情報等を掲載

2025 年度（令和 7 年度）
マガレイの漁況予測
（道北日本海～オホーツク海）

稚内水産試験場 Tel 0162-32-7166

網走水産試験場 Tel 0152-43-4591

（令和 7 年（2025 年）4 月 8 日）

はじめに

道北日本海～オホーツク海のマガレイは日本海を産卵場としています。日本海で生まれた魚の一部は日本海に留まって生活しますが、多くは卵～仔魚期にオホーツク海へ輸送されます。そして、オホーツク海で未成魚期の 2～3 年を過ごした後、成熟の進行に伴い産卵のため日本海へ戻ります。このため、オホーツク海では漁獲物の中心が 2～3 歳の未成魚（ただし、近年は 4～5 歳魚の割合も高くなっている）であるのに対し、日本海では 3 歳以上の成魚が漁獲の中心になります。漁況予測については、漁獲対象の特性に合わせて、以下の 4 つの漁業区分に分けて行っています。

予測対象漁業	海域	漁期	主漁獲対象
日本海春漁	増毛以北日本海沿岸	4～6 月	3～6 歳の産卵親魚
オホーツク海夏漁	オホーツク海	5～8 月	3 歳の未成魚、4～5 歳魚
オホーツク海秋漁	オホーツク海	9～12 月	2～3 歳の未成魚、4～5 歳魚
日本海冬漁	宗谷海峡～利尻、礼文島	10～2 月	3～5 歳の産卵回遊群

概況

道北日本海からオホーツク海におけるマガレイの漁獲量は、1997 年度の 3,001 トンをピークに減少しましたが、2003 年度には 3,090 トンまで増加しました（図 1）。その後、漁獲量は 2008 年度（2,642 トン）や 2012 年度（2,091 トン）など一時的に増加する年も見られるものの、漸減傾向を示しています。2024 年度は 12 月末までの途中集計ですが、前年同期よりも 36% 程度増加しました（図 1）。

漁業区分別および沖合底曳の漁獲量をみると、オホーツク海での漁獲量は夏漁で前年比 6% 増、秋漁で 46% の増となりました。日本海側は春漁・冬漁とも増加し、日本海全体で 36% の増となりました。また、沖合底曳の漁獲量は前年比 33% 増でした。

2025 年度の漁獲量について、2 歳魚（2023 年級）は前年と同程度と考えられます。漁獲の主体となる 3～5 歳魚（2020～2022 年級）のうち、4 歳魚は前年（2024 年）より増加しますが、5 歳魚（2020 年級）と 6 歳魚（2019 年級）は減少すると考えられます。これらのことから、日本海春漁・冬漁の漁獲量は前年度から減少、オホーツク海の漁獲量は前年度より、夏漁において横ばい、冬漁において減少で推移すると予想されます。

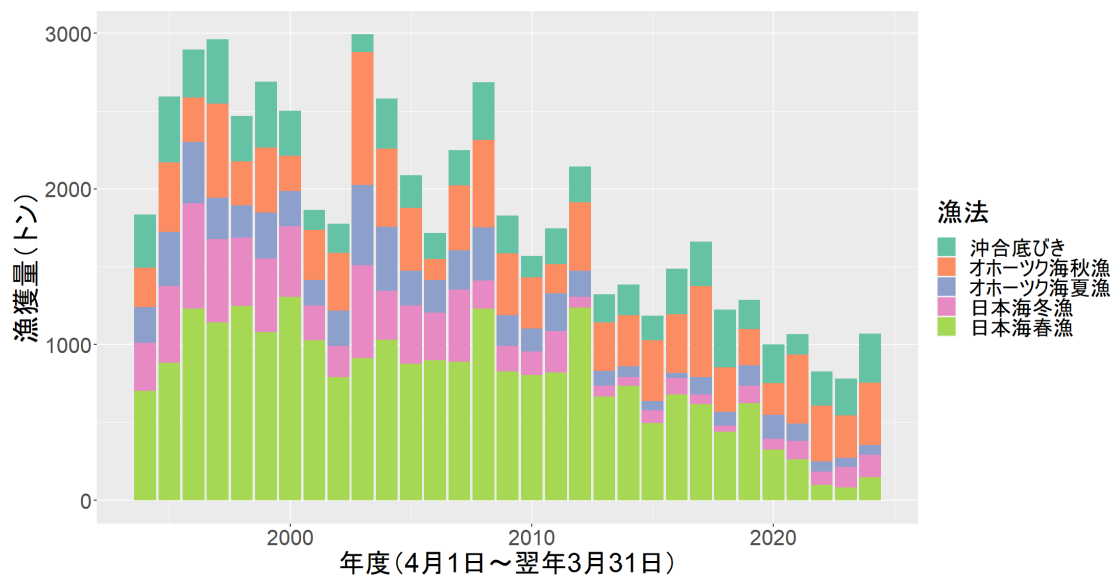


図1 マガレイ漁獲量の推移.

※資料は漁業生産高報告. 2024 年度の漁獲量は 12 月末までの集計値

予測の方法

水産試験場では、マガレイの新規加入状況を把握するために、毎年夏にオホーツク海の雄武町沿岸で小型桁網による幼魚調査を行っています。例年 27 点の調査定点を設け、そこで採集した幼魚の水深帯別の単位面積あたりの尾数を、各水深帯の面積で引き延ばし、「加入量指数」としています。これまでの調査から、雄武の幼魚調査における 1 歳の加入量指数と VPA と呼ばれる資源計算から推定した 1 歳の資源尾数との関係から、加入量指数が高い年級群は資源量が多く、漁獲対象年齢に達するとオホーツク海から道北日本海の海域全体で多く漁獲されることが分かっています（図 2）。

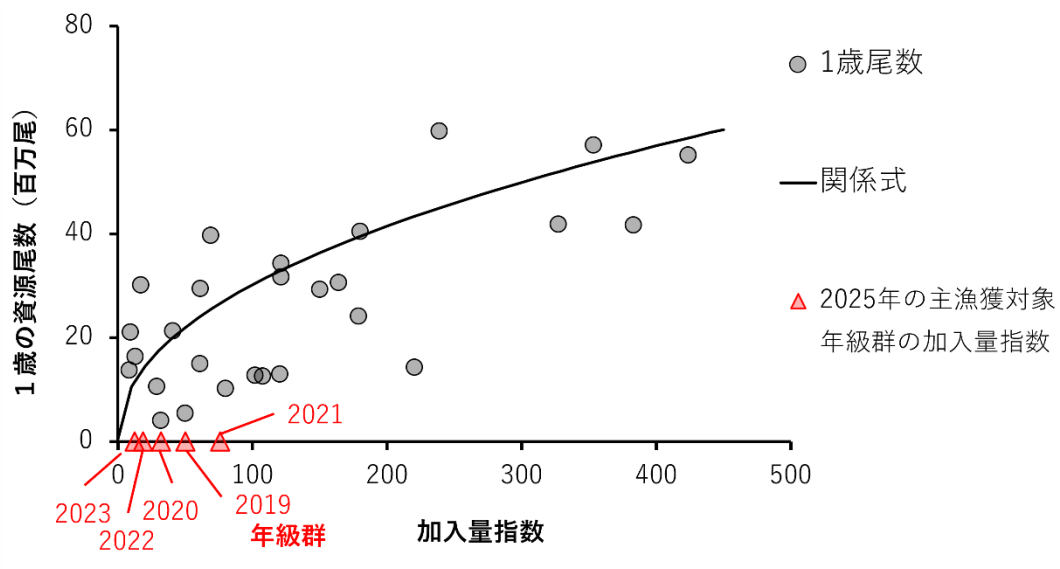


図2 雄武町沖の幼魚調査における加入量指数と 1 歳の資源尾数との関係.

資源豊度

道北日本海～オホーツク海では、主に2歳～6歳のマガレイを漁獲しています。2025年度に主な漁獲対象となるのは、2歳魚（2023年級群：2023年生まれ）～6歳魚（2019年級群：2019年生まれ、）です。それぞれの年級群の1歳時の資源尾数は、図3に示された加入量指数を基に次のように判断されます。

- ・ 2歳魚（2023年級群：2023年生まれ）・・・非常に少ない
- ・ 3歳魚（2022年級群：2022年生まれ）・・・非常に少ない
- ・ 4歳魚（2021年級群：2021年生まれ）・・・普通
- ・ 5歳魚（2020年級群：2020年生まれ）・・・非常に少ない
- ・ 6歳魚（2019年級群：2019年生まれ）・・・少ない

これらの情報をもとに、2025年度の漁況を海域・漁期毎に予測します。

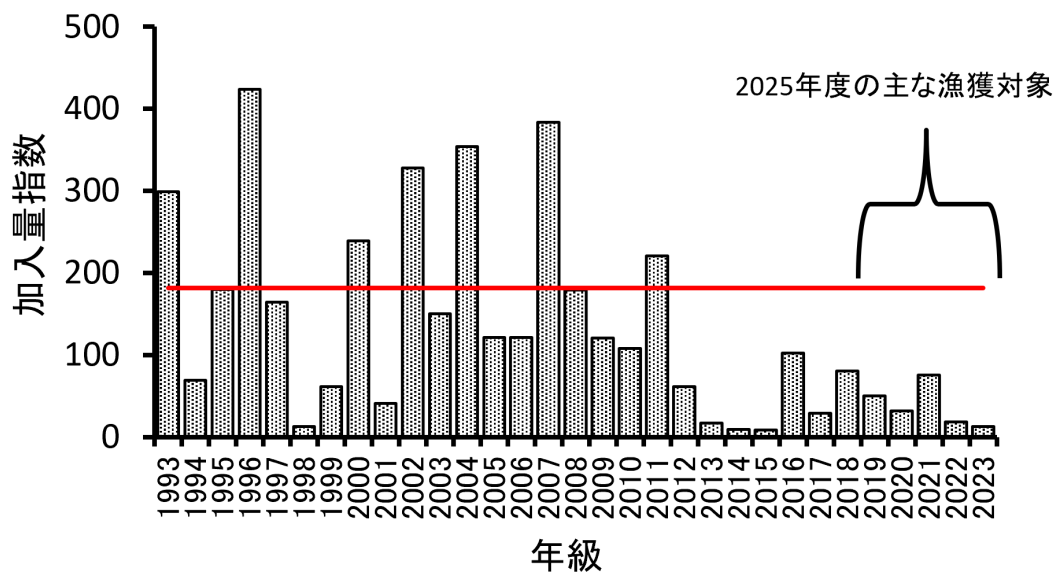


図3 各年級群1歳時の加入量指数.
※赤い横線は1991～2010年級の平均

道北日本海海域の予測

2025 年度の予測 (2024 年度同期と比較して)

春漁 漁獲量は減少

冬漁 漁獲量は減少

● 春漁 (2025 年 4～6 月)

日本海の春漁では、例年 3～6 歳の産卵親魚が主な漁獲対象となります。2024 年度の資源量は、4 歳魚 (2021 年級群) の加入量指数は高いものの、それ以外の年級では資源量が少ないか、非常に少ない状況となっています。したがって、漁獲量は減少すると予想されます。一方で、近年はニシン等へ漁獲対象が変化していることから、マガレイへの漁獲努力量は減少傾向にあり、資源への漁獲圧は低下していると考えられています (詳細はマガレイ (石狩湾以北日本海～オホーツク海海域) の資源評価書: <https://www.hro.or.jp/upload/43860/2023HokkaidoStockAssessment.pdf>)。

● 冬漁 (2025 年 10 月～2026 年 2 月)

宗谷海峡～利尻・礼文島周辺で秋から冬にかけて漁獲されるマガレイは、オホーツク海から日本海に産卵のため移動する群 (3～5 歳) が主体となります。春漁と同様に、4 歳魚 (2021 年級) 以外の資源量が少ないことを考慮すると、漁獲量は減少すると考えられます。

オホーツク海海域の予測

2025 年度の予測（2024 年度同期と比較して）

夏漁 漁獲量は横ばい

秋漁 漁獲量は減少

● 夏漁(2025 年 5～8 月)

オホーツク海の夏漁は、4、5 歳魚が主体で漁獲される傾向があります。本漁期の主体である 2025 年度の 5 歳魚（2020 年級群）の資源量は、非常に低い加入指数を示しています（図 3）。また、4 歳魚（2021 年級群）の資源量は、普通の加入量指数を示していますが、前年の 4 歳魚より多いと考えられることから、2025 年度の夏漁の漁獲量は横ばいと思われます。

● 秋漁(2025 年 9～12 月)

秋漁では 3 歳魚を主体に、4 歳魚も多く漁獲されます。2025 年度の 3 歳魚（2022 年級群）の資源量は、非常に少ない加入量指数を示しています。また、4 歳魚（2021 年級群）の資源量は、普通の加入量指数を示しています（図 3）。これらのことを総合的に考慮すると、2025 年度の秋漁の漁獲量は減少すると思われます。